

きずな(絆) No.25 発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

全国の仲間で被災者のもとへ！民医連綱領の実践を**■「大規模避難所は多くの問題をかかえている」尼崎医療生協グループ**

宮城県内で最大の避難所の医療支援チームリーダーとして大奮闘の医師からの報告です。

多賀城文化センターは、最高 1,000 人以上の大規模避難所ですが、多くの問題点をかかえています。一つ目に、「食事の問題」です。配給されたものを配るだけでほとんどパンかバナナで、1日 1,100～1,200 キロカロリーくらい。炊き出しはなく温かいものは一切ありません。二つ目に、「トイレの問題」です。和式の仮設トイレで便がたまると棒で押し込むようになっていますが、その棒が汚い。また、身障者トイレは 2 階に 1 箇所だけ。三つ目に、「お風呂の問題」です。自衛隊のお風呂はありますが洗髪のみ。外に出られない人はお風呂に入っていません。四つ目に、「避難所の床の問題」です。まず寒い上に、土足のためどんどん汚れていきますが、一面に毛布が敷いていて掃除ができません。五つ目に、「階段の問題」です。エレベーターは 1 基しかなく、足を踏み外して骨折した人がいました。六つ目に、「建物の構造が複雑で全体がなかなか把握できない問題」です。注意しなければならない人のマップを作っています。七つ目に、「避難所の管理体制の弱さ」です。副館長がほとんど一人で管理されていて、毎日消耗していくのが見ていてかわいそうです。最後に、「プライバシーが守れていない」ことです。ある女性が「下着を変えられない」と訴えました。施設に言ったら「ここにはプライバシーはない」と言われたそうです。私が交渉して女性更衣室を 1 部屋確保してもらいました。もっと問題点は一杯ありますが、施設管理者と交渉する予定です。ここは避難所には全く不向きですが、現在、「避難所の統廃合」の話がすすんでいて、小学校の再開に向けて、この避難所に不向きな施設に集中するとの話しもあって危険です。(兵庫・尼崎医療生協「東日本大震災支援ニュース No.16」4/1 より)

■「佐賀県の玄海原発の危険性についても訴える」福岡・佐賀民医連

県連事務局では、毎週火曜日の宣伝行動を東日本大震災の支援募金活動に切り替え訴えを行っています。2回の行動で16,835 円の募金が寄せられました。今回の震災被害にくわえ原発事故が拍車をかけ、原発の安全神話が大きく崩れたことから、佐賀県の玄海原発の危険性と原子力行政の見直しについても訴えました。(「福岡・佐賀民医連 東日本大震災支援ニュースNo.01」3/19 より)

**■「一日高校生企画で震災支援報告」島根民医連**

松江生協病院で行われた一日高校生医療体験実習の中で、震災支援に行った医師が報告を行いました。40℃の熱の赤ちゃんを抱えて必死の形相で来られた母親の表情から、今は究極の状況であることが認識でき、治療後に母親の表情が 180° 穏やかになり、「ありがとう」の言葉をかけられた時、支援に来て本当によかったと思ったなど、自らの体験談を交えて語られました。

(島根民医連「東日本大震災支援ニュース第 6 号」3/25 より)

<おしらせ> * * * * *

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。

* * * * *